

各位

全5ページ
登録速報(2021-108)
2021年 4月21日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2021年4月21日

記

1 農薬の登録番号及び名称

登録番号	第22176号
名称	ゴーゴーサン乳剤（北海道限定）（BASFジャパン(株)登録）

2 変更の内容

農薬登録申請書 第7項「適用病害虫の範囲及び使用方法」を以下のとおり変更し、別紙(変更後)のとおりとする。

- ・ 適用土壌と適用地帯の区分を削除する。
- ・ 作物名「ぼうふう」を「とうすけぼうふう」に変更する。

3 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第8項「使用上の注意事項」に、以下(6)、(16)及び(17)を追加し、以降の項を順次繰り下げ、別紙(変更後)のとおりとする。

(追加事項)

- (6) 砂土では使用しないこと。
- (16) たまねぎの直播栽培では薬害を生じるおそれがあるので、初めて使用する場合は事前に薬害の有無を十分に確認してから使用することとし、は種深度は2cm以上とすること。
- (17) たまねぎの秋播の直播栽培では、処理後に低温が続く条件では生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、たまねぎの1～2葉期に使用すること。

別紙（変更後）

7. 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用 雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用方法	ペンディメタリン を含む 農薬の 総使用回数	
			薬量	希釈水量				
陸稲	一年生 雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	200~400 mL/10a	70~150 L/10a	1回	全面土壌 散布	1回	
麦類 (小麦を除く)			300~500 mL/10a					
小麦		は種後(雑草発生前) ~小麦2葉期 (イネ科雑草1葉期まで)		70~100 L/10a				
ソルガム		ソルガム3葉期 (雑草発生前 ~発生始期)	300 mL/10a					
とうもろこし 飼料用とうもろこし		は種後出芽前 (雑草発生前)	300~400 mL/10a	70~150 L/10a		全面土壌 散布		
ヤングコーン								
かんしょ		挿苗10日後まで (雑草発生前)	200~400 mL/10a	100 L/10a		畦間土壌 散布		
さといも		植付後萌芽前 (雑草発生前)		70~100 L/10a		2回以内 (土寄せ後 の処理は 1回以内)		
		土寄せ後 (雑草発生前) 但し 収穫 60 日前まで	100 L/10a					
ばれいしょ		植付後萌芽前 (雑草発生前)	200~300 mL/10a	70~100 L/10a		全面土壌 散布		1回
やまのいも			200~400 mL/10a	100L/10a				
こんにゃく		植付後又は培土後 (雑草発生前) 但し 植付30日後まで	200~300 mL/10a	70~100 L/10a				
はくさい		定植前 (雑草発生前)						
キャベツ カリフラワー レタス 非結球レタス								
うど	定植後萌芽前 (根株養成圃) (雑草発生前)	400 mL/10a	100 L/10a	畦間土壌 散布	2回以内 (畦間処理 は1回 以内)			
	生育期 (根株養成圃) (雑草発生前) 但し 収穫60日前まで							

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメタリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
たまねぎ (直播栽培)	一年生雑草	は種後～本葉2葉期 (雑草発生前)	200～400 mℓ/10a	70～100 ℓ/10a	1回	全面土壌 散布	1回
たまねぎ (移植栽培)		定植前 (雑草発生前)	300～500 mℓ/10a	70～150 ℓ/10a			
		定植後 (雑草発生前) 但し 収穫30日前まで					
		定植前 (雑草発生前)					
葉たまねぎ		植付後萌芽前 (雑草発生前)	200～300 mℓ/10a	70～100 ℓ/10a			
らっきょう		植付後萌芽前 (雑草発生前)					
ねぎ		定植後 (雑草発生前) 但し 定植10日後まで	200～300 mℓ/10a	100 ℓ/10a			
にら		収穫30日前まで (雑草発生前)					
にんにく		植付前 (マルチ前)	300～500 mℓ/10a	70～150 ℓ/10a		全面土壌 散布	
		植付後 (雑草発生前) 但し 収穫60日前まで		70～100 ℓ/10a			
葉にんにく (マルチ栽培)		植付前 (マルチ前)	400～500 mℓ/10a	70～150 ℓ/10a			
葉にんにく (マルチ栽培を 除く)		植付前	300～400 mℓ/10a	100 ℓ/10a			
植付後 (雑草発生前) 但し 収穫60日前まで							
らっかせい		は種後出芽前 (雑草発生前)	200～300 mℓ/10a	70～150 ℓ/10a			
にんじん		萌芽前 (雑草発生前)	200～400 mℓ/10a				
アスパラガス		植付後萌芽前 (雑草発生前)					
しょうが		春期収穫直後 から萌芽前まで (雑草発生前)	400 mℓ/10a				
ふき (春どり露地栽培)	春期ふき収穫直後 から萌芽前まで (雑草発生前)						
ふき (ふきのとう)	生育期 (雑草発生前) 但し 収穫90日前まで	300～500 mℓ/10a	100 ℓ/10a				
とりかぶと (薬用)							

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンディメリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
おけら	一年生雑草	収穫60日前まで (雑草発生前)	200~300 mℓ/10a	70~150 ℓ/10a	3回以内 (1年間に1回以内)	全面土壌 散布	3回以内 (1年間に1回以内)
みしまさいこ <u>とうすけぼうふう</u> びやくし		は種後出芽前 (雑草発生前)	300 mℓ/10a				
せんきゅう		萌芽後 (雑草発生前) 但し 収穫120日前まで		200~400 mℓ/10a	70~150 ℓ/10a		
とうき いんちんこう		定植後 (雑草発生前) 但し 収穫120日前まで	300~500 mℓ/10a				100~200 ℓ/10a
食用ぎく		定植前 (雑草発生前)		300~400 mℓ/10a	70~150 ℓ/10a		
きく		定植後 (雑草発生前)	400~500 mℓ/10a				100~200 ℓ/10a
りんどう		萌芽前 (雑草発生前)		300~400 mℓ/10a	100~200 ℓ/10a		
チューリップ		植付後萌芽前 (雑草発生前)	300~400 mℓ/10a				100~200 ℓ/10a
すぎ(床替床) ひのき(床替床)		床替後 (雑草発生前)		300~400 mℓ/10a	100~200 ℓ/10a		
桑		春期発芽前 又は夏切後 (雑草発生前)	2回 以内				2回以内

8. 使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前～発芽時に有効であるが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を失しないように散布すること。
- (3) 本剤はイネ科及び広葉の一年生雑草に効果があるが、キク科雑草とツユクサには効果が劣るので、これらの雑草の優占圃場では使用しないこと。
- (4) 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするかまたは降雨後に散布すること。
- (5) 碎土、整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけていねいに行うこと。
- (6) 砂土では使用しないこと。
- (7) はげしい降雨が予想される時には使用をさけること。
- (8) 散布にあたっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用すること。
- (9) 水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では使用をさけること。
- (10) ソルガムに使用する場合、覆土深は3 cm以上とすること。また散播では使用しないこと。
- (11) 桑にはかからないように注意すること。
- (12) キャベツ、はくさい、レタス及び非結球レタスのセル成型苗には薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- (13) 本剤はマルチ栽培のとうもろこしに薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (14) うど及びにらで畦間土壌散布を行う場合、飛散防止カバーを使用して作物にかからないように散布すること。
- (15) かんしょで畦間土壌散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると葉の奇形症状の薬害を生じるおそれがあるので、作物に飛散しないように注意すること。
- (16) たまねぎの直播栽培では薬害を生じるおそれがあるので、初めて使用する場合は事前に薬害の有無を十分に確認してから使用することとし、は種深度は2 cm以上とすること。
- (17) たまねぎの秋播の直播栽培では、処理後に低温が続く条件では生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、たまねぎの1～2葉期に使用すること。
- (18) きくの品種、栽培条件などによっては黄化、抑制等の薬害を生じるおそれがあるので、本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
- (19) 本剤は自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (20) 本剤は衣服（白衣）などに散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (21) 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。
なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上